

ミューズ NO2 (平和のための博物館市民ネットワーク通信)

発行 1999. 10. 1 事務局 平和資料館・草の家 (高知市升形9-11)

TEL 088. 875. 1275 FAX 088. 821. 0586

コーディネーター 西森茂夫

*ニューズレターの名称を「ミューズ」としました。以後よろしくお願ひします。創刊号で、マリア・ルーサーさんが平和博物館と関連施設の究極の目的について「平和博物館及び関連施設は、単なる『博物館』ではなく、ミューズの神々のように芸術・学問ができる所でなければなりません。また歴史的事実を学んで、平和は法律、秩序、組織、政府によって押しつけられるものではなく、皆が同じように関わり責任を持っていく過程であること、また平和はすぐに『取り付け』ることができて永久に続くものではないこと、必要であれば国連のような組織の援助で、平和は守っていかなければならないことを人々に理解させる場所であるべきです。基本的に平和は私たちの外にあるものではなく、それぞれの人の内部から始まるものであり、いかに自分の人生を築いていくのかを反映するものなのです。」と述べていますが、これを語源としました。

*この7月に発行した「MUSE No1」(海外版・英文)は、アメリカ38通、イギリス28通、ドイツ24通、オランダ13通、フランス8通、イスラエル8通他、中国6、インド5、韓国5、ベルギー4、カナダ4、スウェーデン3、ノルウェー3、スペイン3、イタリア4、オーストリア3、オーストラリア3、スイス3、南アフリカ3、アイルランド2、マケドニア2、メキシコ2、フィンランド1、北アイルランド1、デンマーク1、ハンガリー1、ポーランド1、ウズベキスタン1、ブラジル1、ウルグァイ1、スリランカ1、パキスタン1、台湾1、タイ1、ベトナム1、ケニア1、クロアチア2、ニュージーランド4、在日外国人6の計200通です。海外に送りたい友人のアドレスがありましたらお知らせ下さい。

各地の様子—受領機関紙・新聞記事より

1. 「平和友の会だより」68号 99.

6/10

立命館大学国際平和ミュージアムの安斎育郎館長と平和ツアーで「知覧特攻平和会館」に行った時のレポートがある。現地で元隊員の説明を受けたが、事実をたんと語るのではなく「非平和的なアジア演説」を聞くことになり、「平和」と名がつく施設であっても「平和の価値」を発信する施設になっておらず、特に「特攻隊にまつわる悲劇的な展示物や物語と結びつくとき、極めて危険な役割を果たす」と述べている。

2. 「平和友の会」の川畑康郎さんから「第19回平和のための京都の戦争展」のレポートがありました。平和の絵手紙・戦争と教科書展/映画「月光の夏」の上映/女子高生による「私たちが調べた従軍慰安婦」展/ホロコースト日本子ども会議 in KYOTOなど様々な取り組みの中で若い世代の間にゆるやかなネットワークづくりの芽がうまれていることが何よりも嬉しいとあります。

常設の立命館大学国際平和ミュージアムを支える土台づくりとして注目されます。

3. 「立命館大学国際平和ミュージアムより」 8/24

「オランダ・ベルギーの旅路」安斎育郎
「戦争の記憶とその亀裂」赤澤史朗など

4. 「週刊金曜日」の集中連載【市民がつくる平和ミュージアム】(田中伸尚)が注目されました。5/21「平和人権子どもセンター・教科書資料館」、5/28「兵士庶民の戦争資料館」、6/4「平和資料館・草の家」、6/11「岡まさはる記念長崎平和資料館」

5. 来年3月に開館予定の沖縄県平和祈念資料館の展示内容について、稲嶺恵一沖縄県知事が今年3月、日本軍の残虐性を薄めるよう指示していたことが解りました。

「県政が変わったことだし、展示内容が変わるのは当然でしょう」「県立の資料館だし、国のやったこと、国策を批判するようなことはいかなることか」(9/1『琉球新報』)

6. 「祈念館」問題を考える会にゅーす 14号、8/25

4/27第13回口頭弁論の内容が報告されています。今年3月28日開館した「昭和館」の問題点を論証、今の自自公路線の政策指向の底流を鮮やかに浮かび上がらせています。93年に国会で行われた論議と大きく異なっていること、そして、戦争資料館でも、博物館でも、戦争を伝えるものでもないと平然と宣言して、国立の「昭和館」と命名し日本遺族会に管理運営を委託した無神経さは、国辱的背信行為ではないか、と述べています。

7. 『高麗』NO35 5/31

日朝・日韓交流史の博物館づくりをすすめている「高麗博物館をつくる会」の機関紙。TEL&FAX042.378.5425 発行責任者 東海林勤

8. 「原爆展」掘り起こしニュース 7号

1952年6/2~8、彦根市丸菱百貨店で開かれた滋賀原爆展の写真が表紙をかざっている。京都、TEL075.491.1091 川合葉子気付

9 松代大本営の保存をすすめる会ニュース 105号9/10

8月4日から6日、京都市で開かれた第3回戦争遺跡保存全国シンポジウムのことが報告されています。

なお、今回は来年8月19,20日(18日はフィールドワーク)高知県南国市で開かれる予定です。3つの分科会に分かれて話し合われますが、「次世代への継承」の分科会で平和資料館づくりについて交流します。「平和のための博物館市民ネットワーク」の皆さんに参加してほしいと思っています。詳細は次号でお知らせします。

10. 「平和通信 IN SAITAMA」

(埼玉県平和資料館を考える会・4/19第8号 TEL&FAX048.043.0352 妹尾方)

各地の平和資料館が天皇原理主義者の攻撃にさらされていることを報告しています。

* 広島平和資料館

銃後を支える力となって—女性と戦争展
同資料館は「展示内容を固定したものと考えず市民との対話の中で築いていけば」という姿勢を打ち出していますが、この展示会は戦争の反省がなく「銃後を支えた女性」を美化するものとなっています。

* 姫路平和資料館

「戦争と若者群像は・大空へいのち」という展示会や戦争体験の朗読会が企画されました。主催は日本戦災遺族会

* ピースおおさかで「プライド」上映

市民の側からの抗議はありましたが、連日の天皇原理主義者の攻撃によって館も上映を認めざるをえない状況におこまれました。

＊埼玉の平和資料館

全く建物だけが立派で内容が乏しい埼玉の平和資料館にも、天皇原理主義者が押し掛けて、館に対してクレームをつけているとのこと。

埼玉県での731部隊に協力した春日部のネズミの問題や、吉見百穴の朝鮮人強制連行労働による地下壕の問題いまだに扱われていません。

11. 静岡平和資料館をつくる会、ニュースレターNO39 8/1 TEL&FAX054.247.9641

「平和資料館を考える」ミーティング(講師山辺昌彦)、山梨戦跡ネットワークの紹介、投稿「どなたか『平和』をつくるには何をしたらよいか教えて下さい」(永井泰子)など。次回展示案内/コソボ難民のこどもの絵画&写真展/明日に向けての絵本展-平和をつくり出す人のために

12. みやぎの近現代史の会ニュース NO1~4 (8/20) TEL022.215.5424 熊谷鉄治

仙台市歴史民俗資料館所蔵の資料の調査・研究を中心に活動しています。仙台市歴史民俗資料館は、戦前、仙台第2師団歩兵第4連隊の兵舎に利用されていましたが、戦後、その内の一棟を民俗資料館として保存し今日に至っています。ここには、明治・大正から15年戦争に至るまでの戦争関係資料約4万点があります。

8/1~8/29企画展「戦争と庶民の暮らし」をしました。

13. 兵士庶民の戦争資料館

8月いっぱい「軍隊の特質とババル島虐殺事件」の企画展。軍隊の特質を考えるのにふさわしい展示となった。

14. イリアンだより-太平洋戦史館 20号 5/20 TEL0197.52.3000

公営化に向け階段を一步/戦後処理問題の情報公開を求め活動を開始。

15. ピースおおさか企画展「学童疎開」 9/25~11/23

16. 季刊戦争責任研究 25号1999年秋季号

小特集・15年戦争をめぐる争点ほか「歴史を改竄する右派勢力の最近の動向」儀義文、「『昭和館』と私たちの課題」西川重則など重要な論文があります。

17. 平和資料協同組合(ピースデポ)発行の「核兵器・核実験モニター」の購読をおすすめします。毎月2回発行、FAX045.563.9907 梅林宏道

第3種郵便物認可

ASAHI

東京都

平和祈念館の建設凍結

展示内容 意見対立 財政難 追い打ち

東京都は、「戦争の記憶をとりこめ平和を語り継ぐ場」として二〇〇一年度の開館を目指していた「東京都平和祈念館」(仮称)の建設計画を凍結する方針を固めた。展示内容を巡って都議会や都民の意見が割れていたことに加え、深刻な財政難もあって、来年度予算案への建設費計上を断念した。東京大空襲の記録を残す市民運動を出発点にした二十年越しの構想で、資料収集や空襲犠牲者の名簿作りも始まっていた。

都平和祈念館は、一九九三年に最初の整備基本構想がまとまり、中央区内に九八年度に完成予定だった。しかし、バブル崩壊に伴う財政難で九四年にはいったん棚上げされた。九五年に就任した青島幸男前知事のもとで規模を縮小し、場所も空襲の被害が

大きかった墨田区の都立横網町公園に移して構想を復活させた。半地下方式で延べ床面積約四千五百平方メートル、総事業費は約三十八億円で二〇〇〇年着工、二〇〇一年完成の予定だった。ところが、都が九七年に

示した展示のたたき台に対して都議会、市民グループも巻き込んだ激しい論争が起きた。東京大空襲による被害だけではなく、アジア諸国に対する加害的な側面も取り上げながら戦争の全体像や今日の平和の問題まで展示する考えが示されていたためだ。知事の諮問機関だった「平和祈念館建設委員会」(座長・下山英二都立大元総長)でも結論が出ず、九八年夏の最終報告では「両論併記」の形になった。

都は今年度予算で約一千五百万円の基本設計費を計上していたが、都議会は三回、展示内容についてさらに検討を加えて都議会の合意を得ることや、祈念館より空襲犠牲者の追悼碑建立を先行させることなどを求める「付帯決議」を可決。石原慎太郎知事も七月の都議会で付帯決議を尊重することを明言した。

さらに、深刻な財政難への対応策として七月、都がまとめた財政再建プランでも「新規施設の建設の原則停止」が打ち出されたことが凍結へつながった。

都は「財政の好転が再開の条件だが、資料収集や名簿作成は今後も続ける」としている。

海外の平和博物館

海外の動きについて、お知らせします。

国際交流部 山根和代

* ハーグ世界市民平和会議へ

ハーグ市民平和会議は5月中旬に開かれましたが、その時平和博物館国際ネットワークの会議も開かれました。次の国際会議は2002年にベルギーで開催することになりました。ハーグでは、Yi Jun Peace Museum と 平和宮にある平和博物館を訪問しました。またベルギーにある The Museum in the Ijzer Tower と In Flanders Fields Museum も訪問することができました。平和会議の詳細は、「反核法律家」(核兵器の廃絶をめざす日本法律家協会発行)で知ることができます。(160-0004 東京都新宿区四谷1-2 伊藤ビル2F Tel:03-3341-1417; fax: 03-3341-1439)

また Yi Jun 平和博物館では、Yi Jun の92周年記念として朝鮮に関する国際平和会議を開き、立命館大学国際平和ミュージアムの安齋育郎館長が日本人として初めて講演をされました。

* 文学と文化を通して紛争解決をめざす国際会議

6月末イスラエル北部のガリラヤで国際会議が開かれました。国際ネットワーク(International Friends of Literature and Culture: IFLAC)が創られ、今後翻訳や電子メールを活用して、交流をすることになりました。また暴力的なテレビ番組が多いので、各国で調査し、対策を講じることが話し合われました。

来年は国際平和文化年ですが、IFLAC と平和博物館の国際ネットワークで協力していくと、平和文化の創造を促進をすることができるのではないかと思います。IFLAC には、作家や詩人、芸術家も加入しており、例えばイスラエルの画家である Judith Zilberstein さんから、早速絵画の展示について問い合わせがきています。詳細を知りたい方は、山根に御連絡下さい。

平和博物館国際ネットワークのニュースレター 11号より

* 日本の平和博物館国内ネットワーク、第3回国際会議の報告

日本では1994年以来広島平和記念館など大規模な平和博物館が8館集まって、ネットワークを作っています。昨年開かれた平和博物館国際会議では、大規模な平和博物館だけでなく、小規模な平和資料館、またこれから平和博物館を作りたいと考えている人々が約80名集まって交流し、国内のネットワークが作られたことが、紹介されています。

また第3回平和博物館国際会議について、報告されています。会議で発表された報告が、報告集として出版されました。英語版と日本語版(「平和をどう展示するかー第3回平和博物館会議報告書」)があります。入手したい方は、立命館大学国際平和ミュージアムに申し込んで下さい。連絡先: 603-8577 京都市北区等持院北町56-2 電話:075(465)8151、Fax: 075(465)7899

* ガンジー: インドにおけるワークショップのお知らせ

12月12-19日、インドのKundai (Goa) で「インターネットとガンジー」というテーマで、ワークショップを開きます。インターネットを通して、どのようにガンジーの思想を広めるかが話し合われます。使用言語は英語で、参加費は\$250です。詳細は、workshop@gandhiserve.com で入手できます。

Peter Ruhe さんによりますと、ガンジーに関連のある各地の写真を撮り、それをスライドにしてガンジーの思想と今日のインドを紹介する取り組みをしています。

Kanu Gandhi's Mahatma: 移動展示物のお知らせです。ガンジーは、カヌの大おじに当たります。カヌは、ガンジーが暗殺されるまで写真を撮りつづけました。縦46cm、横 46cmの大きさで、重さは約 800kg です。興味のあるかたは、Peter Ruhe さんに御連絡下さい。

Peterruhe@hotmail.com

* ユネスコと国際博物館協議会とのつながり

平和博物館国際ネットワークでは、ユネスコと国際博物館協議会 (International Councils of Museums: ICOM) と関係を蜜にしています。ユネスコでは、平和博物館が平和文化の創造に貢献できることを歓迎しています。来年は国際平和文化の年ですが、ユネスコの平和文化のプログラムについて知りたい方は、次のホームページを開いてみて下さい。

www.unesco.org/cpp

または北アイルランドの Dr. Terry Duffy に連絡を取って下さい。資料を送って下さるそうです。

Dr. Terry Duffy, Peace & Conflict Studies, Magee College, Derry, N. Ireland BT48 0NP; tel. 44-1504-375-223; fax: 44-1504-375-207; e-mail: TM.Duffy@ulst.ac.uk

また ICOM に関する情報は、下記の所へ連絡して下さい。

UNESCO-ICOM Information Center, Maison de l'UNESCO, 1 rue Miollis, 75732 Paris cedex 15, France

* ノーベル電子博物館

スウェーデンのノーベル財団では、ノーベル電子博物館を設立しました。アルフレッド・ノーベルやノーベル賞、展示や図書館などについて、次のホームページで情報が入手できます。

www.nobel.se

また 2001 年にノーベル賞 100 周年記念を祝って百年祭展示会をオスロとストックホルムでする予定です。

* レマルク生誕百周年記念展示会

小説「西部戦線異常無し」の著者、エリク・レマルク(1898-1970)の展示会が、ニューヨーク大学で開かれました。レマルクはドイツで生まれましたが、反戦的な小説であるということで、ナチスにより本は焼かれ、彼はアメリカへ逃亡しました。展示会に関するカタログ(無料)を入手したい方は、次の所へ連絡して下さい。 Marvin J. Taylor, Fales Library, 70 Washington Square South, New York, N.Y. 10012, USA

* アンリ・デュナン博物館

赤十字社の創設者、アンリ・デュナンの博物館が、スイスの Heiden に出来ました。デュナンが晩年過ごした所ですが、以前あった建物を改造したものです。リーフレットは、ドイツ語とフランス語で入手できます。英語版は今年中出されます。また彼の生涯についてのビデオ(30分)ができ、日本語版もあります。

Asylstrasse 2, CH-9410 Heiden, Switzerland. Tel. and fax: 41-71-891-4404

* ジャン・デ・ブロッホの展示

平和研究と平和博物館のパイオニアであるジャン・デ・ブロッホの展示が、ロシアのサンクトペテルブルグで行われました。2月 24-27 日ブロッホを記念した会議が開催された際、展示されましたが、その内容は、国際平和会議の必要性をロシア皇帝ニコラス二世に感じさせた彼の著書「未来の戦争」(The Future of War)、1899 年第一回ハーグ平和会議におけるブロッホの活動、1902 年スイスのルツェルンで創設した国際戦争・平和博物館に関する資料などです。サンクトペテルブルグで第一回ハーグ平和会議が開かれましたが、その百周年記念の会議が開かれました。

*チベットのピースガーデン

ロンドンに5月13日ダライ・ラマ氏によって、ピースガーデンが開園しました。その目的は、ダライ・ラマ氏の平和と調和のメッセージを伝え、また異文化の理解を促進することです。

また帝国戦争博物館の隣に、瞑想の庭(The Garden of Contemplation: チベット語では Samten Kyil) があります。チベット財団(The Tibet Foundation)の連絡先は、次の通りです。

10 Bloomsbury Way, London WC1A2SH UK

*ロンドン市民記念公園

ロンドンでは1991年以来、第二次世界大戦犠牲者の記念館がある公園を作ろうという運動があります。1940年に始まったロンドン大空襲から1945年3月まで、約3万人の市民がロンドンで亡くなりました。また英国のその他の地域でも、同じ位犠牲者が出ました。ドイツ軍の空襲の標的になったロンドンのドックの近くに、記念館の建設を考えていますが、場所の確保をめぐる地域住民と開発業者が対立している状況です。記念館では、空襲の犠牲者、市民の素晴らしい復興力、今日の世界各地の紛争を取り上げ、子ども達や若者が平和の尊さを理解できるような教育センターの設置も考えています。1995年から始まった市民運動の連絡先は、次の通りです。

Civilians Remembered Trust, 1 Greenbank, Wapping, London E1 9PA, UK; tel. 44-171-265-1686 & 44-171-480-5035

*1930年代ドイツ反戦画家の絵画はどこに？

* イギリスのレスターにあるニューウォーク博物館では、ドイツの反戦画家 Johannes Matthaeus Koelz (1895-1971) の大きな絵画 (“Thou Shalt not Kill”: 「汝、殺すなかれ」)の一部を探しています。彼はヒトラーの肖像画を描くことを拒否してイギリスに家族と亡命しますが、その直前彼の3枚続きの絵画が破壊されるかもしれないので、それをいくつかに分けて友人に預けました。戦後娘の Ava Farrington さんは、絵画のいくつかの部分を集めることができましたが、まだ全部集まっていません。そこでニューウォーク博物館では、集まった絵画の展示をして、行方不明の絵画を探すことを訴えました。

*ドイツのフィリップスバーグに平和の記念碑

ハイデルベルグの南西30kmにあるフィリップスバーグに、平和の記念碑ができました。「ヨーロッパで最も不幸な町」と言われることがあるほど、戦争によって破壊されてきました。30年戦争(1618-48)以来町は破壊され、1801年にはナポレオンの命令ですっかり破壊されました。しかし今日では、平和なヨーロッパのシンボルにしたいと人々は考えています。

*平和に貢献した女性:ベルギーに彫像

ベルギーのハセルト(Hasselt)という都市に、1998年11月11日の復員軍人の日(第一次世界大戦と第二次世界大戦の終結を記念する日)に、戦争中の女性の犠牲と苦しみを思い出させるような彫像の除幕式が行われました。フランドルのパックス・クリスティの「女性と平和」という団体が、アントワープの彫刻家 Jan Calmeyn と、彫像の置き場所を提供する市に働きかけて実現しました。戦争で女性は、自分の家族だけでなく、難民や戦争の犠牲者の世話をしてきましたが、女性の力と勇気と創造力をその彫像は表しています。しかし残念ながら、女性の果たした英雄的な役割は、見落とされており、復員軍人はその式典への参加を拒否しました。パックス・クリスティでは、将来復員軍人と理解し合えることを望んでいます。

* イタリア:世界平和記念館

イタリアの Loreto Aprutino という村に、世界平和記念館が作られています。70メートルのピラミッドの形をした建物の中には、世界文化センター、会議室、展示場があります。その建物は、様々な彫像で囲まれる予定です。<http://www.gael.ch/loreto>

* ベトナム戦争を記念した展示物、ベルファストへ

1982年ワシントン D.C. に作られたベトナム戦争戦死者の名前を書いた壁の複製品が、移動展示物としてアメリカ各地で活用されています。北アイルランドのベルファストでも、展示されました。詳細は、次の所で入手できます。

Vietnam Veterans Memorial Fund: 1012 14th St., NW, No. 201, Washington D.C. 20005, USA;
tel: 1-202-393-0090; fax: 1-202-393-0029; E-mail: VVMF@AOL.com and website:
www.VVMF.org

* 環境にやさしい旅行を通して、平和を!

旅行を通して平和の実現を目指す国際研究所 (the International Institute for Peace through Tourism: IIPT) は、10月17-21日にスコットランドのグラスゴーで国際会議を開催する予定です。旅行と平和が大好きな方は、是非次の所で詳細を入手して下さい。

IIPT, Fox Hill 13, Cottage Club Road, Stowe, Vermont 05672, USA; tel: 1-802-253-2658; fax: 1-802-253-2645; website: WWW.IIPT.ORG; e-mail: conference@IIPT.org

* オーストリア:シュライニング

オーストリア平和・紛争解決研究センターでは、2000年に開館するヨーロッパ平和博物館の準備として、「平和と文化」というシンポジウムを昨年の秋に開きました。来年「戦争か平和か」という展示をしますが、そのパンフレットを英語とドイツ語で発行しました。展示期間は、来年の5月8日から11月5日までで、開館時間は9時から5:30時までです。

* ベルギー: Diksmuide

3月13日 Ijzer 塔の博物館が開館しました。テーマは、「戦争と平和: フランドルの解放」で、第一次世界大戦に焦点を当てています。3月13日から11月11日まで開館していますが、グループで訪問する際は、予約をすればいつでも訪問できます。

<http://user.online.be/~ijzertoren/> E-mail: ijzertoren@unicall.be

* ドイツ: ヒンデラング

6月24日リンダウ平和博物館の元館長であったトーマス・ヴェックスさんが、故郷の Hindelang に平和歴史博物館を開館されました。また「平和は可能である」という本の出版もされました。開館時期は、7月15日から9月15日までですが、予約をすればその期間以外でも訪問ができます。

Thomas Wechs: Hindelangerstrasse 20, D-87541 Hindelang, Germany

* イタリア: ミラノ

ピエラさんとジアンカルロ・カラメリノさん夫妻は、1944年の空襲で生き残った人々の集いを何度も開きました。これは多くの参加者にとって、感動的な集まりでした。今後空襲体験を書きとめる予定です。今後平和博物館を創ることを考え、空襲の被害者や子ども達が参加できる取り組みをする予定です。

* 日本: 広島平和記念館と高知の「草の家」のニュースが、載っています。

* スイス: ジュネーブ

「平和のための芸術家」(Artists for Peace) では、会員が 100 人になりました。5月にはジュネーブで第5回国際会議を開きました。会長の Ursula-Maria Ruserさんは、国連を退職されましたが、新しい住所は次の通りです。

Charles-H. King Strasse 21, D-14163 Berlin, Germany Tel: 49-30-8090-7340; Fax: 49-30-8090-7342

* アメリカ

シカゴ: ベトナム戦争に関する展示と、異教徒の平和へのアプローチという展示を実施しました。来年「21世紀へのメッセージ」というテーマで展示をします。平和のメッセージや絵画など、送ってください。

The Peace Museum: 314 West Institute Place, Chicago, Illinois 60610 USA

Tel: 312-440-1860; Fax: 312-440-1267

www.peacemuseum.org

デトロイト: Swords into Plowshares Peace Center & Gallery では、ガンジーに関する展示、またデトロイト出身の画家である Richard Kozlow の絵画展をしました。また著名な音楽家二人によるコンサートで、1200ドルの運営資金を得ることができました。創立13周年記念には、ベトナム戦争に反対したユージン・マッカーシー元上院議員の講演会を開きました。

リンカーン: The Prairie Peace Park では、ブルースのコンサートを開きました。8つのバンドが、8時間ブルースの演奏をしました。またエレノア・ルーズベルトの写真入りの銘板と、ネブラスカの人権活動家 5 人の銘板を公園の見晴らし台に設置しました。ネブラスカの人権擁護指導者に関する本の出版もしました。

*** **

* 出版物のお知らせ

核兵器の違法性を追求されたニュージーランドの Kate Dewes さんと Robert Green さんの共著: *Aotearoa/New Zealand At The World Court* (The Raven Press, Christchurch, 1999) 英文で書かれていますが、平和教育の教材に活用できそうです。

* 平和と友好の旗: Companion Flag

アメリカでは、平和と友好のシンボルとしての旗を世界に広めようという取り組みをしています。現在そのホームページの英文を和訳しているところですが、関心のある方は下記に連絡を取ってください。Companion Flag Support International: Scott Wyatt: 10115 Greenwood Ave. N., #142 Seattle, WA 98133 E-mail: swyatt@nwlinc.com www.companionflag.org

* 平和歴史学会: Peace History Society

戦争の原因や平和主義者、平和運動などの研究をし、研究成果を多くの人々に知らせる平和歴史学会は、1964年に創設されました。2000年4月28-30日には、アメリカの Western Washington University で平和運動に焦点を当てた会議を開きます。1972年以来、Peace & Change という学術誌を出版したり、PHS News を年4回発行しています。年会費は 35ドルです。日本の平和博物館では、どのように歴史を展示していくのかが問われていますが、海外の歴史研究者や平和運動の歴史を発掘している方と交流をしてみませんか?

<http://www.albany.edu/history/PeaceAndChange/> 会長: Dr. Scott Bills (Sbills@sfasu.edu)

問い合わせ先: Prof. Geoffrey S. Smith, Dept. of History, Queen's University, Kingston, ON, K7L3N6, Canada (smithgs@post.queensu.ca)